

まつど SDGs キャラバンメンバーシップ宣言書

令和 05 年 09 月 05 日

企業・団体名 株式会社 ベリタス

代表者役職・氏名 代表取締役 竹村 功

SDGs 達成に向けて、以下のとおり取り組むことを宣言します。

1 SDGs 達成に向けて、現在取り組んでいること

別紙添付

2 今後の SDGs 達成に向けて、(1)目指す方向(方針)(2)具体的に取り組みたいこと

(1)目指す方向(方針)

別紙添付

(2)具体的に取り組みたいこと

別紙添付

3 取り組みを通じて目指したい SDGs のゴール(☑を入れてください。複数選択可)

 ☐	 ☐	 ☑	 ☑	 ☐	 ☑
 ☐	 ☐	 ☑	 ☑	 ☐	 ☐
 ☑	 ☐	 ☑	 ☐	 ☐	

まつど SDGs キャラバンメンバーシップ宣言書

令和 05 年 09 月 02 日

企業・団体名:株式会社 ベリタス

代表者役職・氏名:代表取締役 竹村 功

SDGs 達成に向けて、以下の通り取り組むことを宣言します。

①SDGs 達成に向けて、現在取り組んでいること。

我々は、洗剤を取り扱うことにおいて、すでに 35 年程前から地球環境改善のために全有機炭素量 (TOC) の低減に役立つ(寄与する)商品の研究開発に取り組んできました。

その代表的商品は下記のものですが、営業力がないので、これからより広く知られるよう活動し、地球環境の異変の原因と、人々ができる行動を示していきたいと思っています。

○「しみとりパワーUP」=世界(今でも類似品はない)初のシミ・しつこい汚れの洗浄剤衣類等繊維製品のシミ取りの定説は「シミの種類を判別して、それに応じた薬剤・洗剤を選ぶこと」とされてきました。しかし、そんなことは素人には無理な話です。

そこで、一つでほとんど全てのシミ・しつこい汚れを落とす「シミ取り剤=しみとりパワーUP」を開発しました。千葉・東京の一部の生協ではかなりの組合員に使用され高く評価されました(取り扱ってくれた方が亡くなってからは扱われていません)。

Amazon に登録して二年、数は少ないのですが、カスタマーレビューは「5☆」のままです。

他の消費者の意見をも参考にすると、諦められずタンスにしまって 10 年以上、試しに使ってみたらシミ が全て消えて、再び着用できるようになったという例が数多くあり、使って初めてビックリした方が長く続けてくださいという励ましの声をよせてくれています。

中には、水害でドロだらけになった思い出のブランドバッグを復活させることができた大喜びの方がいました。兎に角、種々雑多な汚れに適用できることが、一般消費者には喜ばれているのではないかと思います。

10 年経っても、製品自体の変化はなく(少し水分がとぶ程度)、効果・効能にも変化はありません。手が荒れることもほとんどなく、みな驚いています。

衣類を捨てるのは、汚れたら自分で簡単に落とせないからです。タンスに眠っている衣類を蘇らせれば、新規購入も廃棄も少なくすることができ、TOC 削減に貢献すること大であるのは間違いありません。

○「ミラクレール MRC」=21 世紀の洗剤はこれだ！

聖マリアンナ医科大学付属病院洗たく室(昨年末でリネン類はリース制になった)のプロの要望に応えて開発した、殺菌・消毒・漂白・柔軟効果のある無リン洗剤。TOC は、市販洗剤の 1/8 に低減。次亜塩素酸ソーダや他の柔軟剤を一切使用しなくなりました。

現在は、養護老人ホーム「あやめの苑」で約 20 年ほど使い続けています。

最近、大手メーカーが抗菌性を謳う CM をしきりに流していますが、それらは有機性の殺菌剤を配合しているだけで、何の工夫もありません。むしろ、以前厚労省が有機系殺菌剤は自然界の微生物バランスに影響を与えるので、なるべく殺菌剤を使用しないよう通達を出しています。

「ミラクレール MRC」は水がなければ殺菌効果を発揮しません。そして、作用を発揮した後はすみやかに酢酸(お酢)になってしまうので、自然界に影響を耐えることはありません。

#### ○「@キエータ/ペイシ AP」=初めての過酢酸粉末製品

現在、最も安全・安心と評価されている殺菌消毒剤「過酢酸」の粉末製剤。

今日、過酢酸は製造上の問題があって液状で作られているが、そのため安易に取り扱うことができないという問題があります。それを扱いやすい粉末状にしたものです。

過酢酸は安全性が確かめられていて、近年厚労省も食品への使用を認め、次亜塩素酸ソーダに代わる有効な殺菌・消毒剤としてすすめています。

ただ、粉末製剤は他に例がないので、判断をしかねているようです。というのは、流通するときの状態は「雑貨」に分類されるからです。それが、水が共存すると過酢酸になるという仕組みであるため、殺菌・消毒剤に分類するかどうか、新しい判断が求められているからです。

しかし、そのメカニズムは学術的に確証されています。

3年間にわたるコロナ感染症の中で、種々雑多な消毒剤がでてきましたが、厚労省は結局エタノール主体の消毒剤しか認めませんでした。しかし、この過酢酸粉末製剤に関しては、黙認状態で終わりました。

#### ○ESD

我われは、幼少児から SDGs の考えを持てるような教育をする一環として、唱歌を作り普及することも実践し始めたところです。

大人が急に考えを変えるのは大変なことです。

それなら幼少期から歌・リズムで脳裏に焼き付けておくことが効果的であると思いました。

将来、これからの子供達は、否応なく厳しい地球環境の中で生きて行かなければなりません。そんな子供達に、幼少児期から SDGs の何たるかを無意識のうちに身につけるような教育をすること、それが地球環境保全のための基本ではないかと考えます。

その一環として唱歌を作り普及することを実践すべく、子供達が身体で体現する歌・リズムで脳裏に焼き付けておくことが効果的であると考え、商品を購入された方々へ「地球はみんな皆の大事な星」の歌を添付している。

## ②今後の SDGs の達成に向けて

### (1) 目指す方向(方針)

TOC を削減することに寄与する製品の開発

環境破壊のメカニズムを一般消費者に分かりやすく伝えて、一人ひとりが考えて TOC 軽減に努力する行動をとること。

今日の状況は、人々がより快適な文化生活を希求してきたことによる結果です。

80 億人ともなるとする人類が、地球上の限られた資源の中で快適な文化生活を希求すれば、負の遺産である公害も見えない形で必ず付随してきます。いや「見えない形」ではなく、前ばかり見ていて背後に付随していたことを見ていなかったのです。

文化生活と公害は表裏一体の関係にあるのです。そのバランスが取れている限り地球環境に悪影響を及ぼすことはありませんが、今日、そのバランスが崩れてしまっているのです。すなわち、地球環境の自然の回復力追いつかなくなっているのです。

それを少しでも元に戻そうとする努力が今日の我々に課せられた課題です。

具体的には、簡単に衣類を捨てないこと。汚れても、洗浄することによって再利用を繰り返すこと。すなわち、物を大事に使うことです。それを、少し前には「もったいない」という気持ちを持つことであると言われていました。

力のない者が 30 年以上前から声を上げて、耳を傾けてくれる人はいませんでした。しかし、今は違います。その勢いを更に後押しする動きが社会全体を動かし始めています。

## (2)具体的に取り組みたいこと

○商品には、必ずわかりやすい「上手な使い方」を添付して、無駄がなく、有効に使用できるようにすることを励行しています。

### ○洗剤・シミ取りの CD 作成

大手メーカーの間違ったイメージ戦略に惑わされないよう、必要であれば、講習会・セミナーなどを開催して正しい情報を伝えたいと思っています。

現在は、CD を作成して配布しています。

①洗剤の CD＝洗いざらい『何でも知ろう 洗剤のこと』

②シミ取りの CD＝誰でもできるしみ・汚れ落としのサイエンス『しみ・汚れの科学事典』

### ○幼少期から、感覚的に歌(&リズム)で教育

「地球はみんなの大事な星」という幼少～児童用の曲を広め、将来を担う子供達に環境改善の必要性を認識してもらうこと。

○現在、最も安全・安心と評価されている過酢酸粉末製剤で、トリインフルエンザなどで全てのトリを殺処分するなど、無駄なことをしないこと。過酢酸の抗菌スペクトルは、現在ある殺菌剤の中では最も幅が広いので、有効利用できる分野はかなりあるのではないかと思います。

特に、健康弱者を集めた施設である病院や施設などでは効果が期待できます。聖マリアンナ医科大学付属病院とあやめ苑では、過酢酸粉末製剤を配合した「ミラクレール MRC」を長年使用していますが、トラブルは一切ありません。むしろ、従業員の方々の手肌の荒れ・ひび割れなどが改善したと喜ばれています。

(※) 過去3年間のパンデミック中、一般家庭での使用に備えて個人的に試しています。

SDGs 運動は企業だけに任せるのではなく、一般の人々が違和感なくそれぞれの生活習慣の中に受け入れ、静かに広がって行くような意識改革を意図するものでなければなりません。

そこで我われは、「目標(Goals)」だけではなく、そのために有効な「商品・品物(Goods)」の研究開発を合わせて「Gs」ととらえることによって、物の消費が美德と考えられていた時代に、「もったいない・大切にしなければ」を前提に、汚れをしっかりと落とす洗剤の研究開発を行ってきました。

衣類の廃棄は膨大な量になります。それを自分たちで普通に元の状態に戻すことができれば、廃棄する量は減少し、環境への負荷を少なくすることができます。

いわゆる「もったいない・物を大切に使う」という考えを醸成する、ということになります。ことさらSDGsだと気張ることではなく、普段の生活習慣の中の一つとしてTOC削減の行動がとれるような社会になることが望まれるのではないかと思います。